
Oneself

時間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

One self

【Zマーク】

Z0978Z

【作者名】

時間

【あらすじ】

幼い頃から今までの記憶が無い少年、静馬。

表向きはいつも笑っているが…裏向きは本当は誰にも言えないくらいの臆病。

そして、ある日、出会ってしまった。

B-L?要素はいるかもです。すみません。

Prologue

自分自身は何者なのが分からぬ。

その恐怖心で自分に期待、しなくなつた。

誰かが、誰かが僕の事を分かつてくれる人が居たら、

僕はその人を信じるだらうか?…。

何も分からぬ…ただ僕は…人を信じる事も出来ない。

氷葉 静馬

中学3年生の男の子。

表=明るくて元氣で誰にでも優しい。

裏=生意氣のようで冷たくて臆病。

記憶喪失。幼い時の頃の記憶が無い。

表=いつも友達といいて、成績優秀でよく笑う。

裏=他人を信じない、記憶がないせいの臆病さ。

本当の自分自身が不明。

上塚 柏

18歳くらいの男の人。

明るいようで冷たい人でよく笑う。

静馬によく絡む。

とても、不思議な人。

#1 Encounter

自分自身が誰なのか。

自分自身はどうに屈るのか。

それすらも分からぬ。

何も分からぬ。

ただ、笑っている。

無意識に、人を傷つけてしまつ。

そんな自分がいやで…いやすぎで。

自分自身を分かつてくれる人を探していた。

「静馬！今日、遊ぼうぜーー！」——コラッ

「あつ…じめん。今日は用事があるんだ。」——コラッ

「そつか、じゃあまた今度遊ぼうぜー！」——コラッ

「うん！」——コラッ

少年の名前は『氷葉静馬』
ひよしづま

「はあ…雨だ…。」

今日の天気は雨だった。

「静馬、傘は？」

「無い。濡れて帰るからいこよ。」——コラッ

「あつだけど。」

「大丈夫！じゃあな」二コツ

「うん！」二コツ

静馬は雨の中を走つて帰つた。

早く逃げたかつた。

あんなの僕の居場所じゃない。

「ハア…ハア…ハア。」

雨の中を静馬は歩いていた。

僕の居場所なんか無い。

本当は分からぬい。自分がどこの誰なのか…。

何者なのかも、分からなくて怖くて…。

「……。」

静馬は道端を座り込んだ。

「…誰が僕の事を知つてるの？…。」

誰も居ないところで一人雨に打たれて座つていた。

「お前。」

「……。」

静馬に話しかけてくる一人のスーツを着た男。

「冰葉、静馬だな？」

「えつ…？」

力チツ！

「！？…。」

スーツを着た男は、静馬に銃を向ける。

「やつと、見つけた。死ね。」

「！？……。」

バキューーンッ！！！！

「なツ！？貴様！。」

スーツを着た男が倒れた。

「！？。」

「大丈夫？静馬」二口ツ

「えつ？。」

『静馬。』二口ツ

「…柏…。」

「覚えてる？逃げよう。」

「！？。」

何で…僕はこいつの名前を知ってる？。

グイッ！

「！？。」

男は静馬の手を引っ張る。

「行こう。」

「！？。」

「！？。」

そして、静馬は男と逃げた。

#2 RedBlood

「つて…あんた誰！？」

「今は走つて！！」

「はあ！？..」

「待て！？..」

静馬と男に後ろには数人のスーツを来た男が追いかけてくる。

「ちよど」めん。」

フワッ

「うわあ！？..ちよつ！？..」

静馬は男にお姫様抱っこをされる。

「..何するんだよ！？」

静馬は顔を真っ赤にして暴れる。

「いいから、いいから。つかまつてて！」

「！？..うわあ！？..」

男は軽々と屋上を飛び越えていた。

「…あんた！何者なんだ！？」

「…俺は…静馬の従者だよ」二口ツ

「はあ！？..従者？..」

「いいから、今は逃げるよ！」

「うわあ？！..」

僕はこんな奴知らない。

記憶に無い。

まあ、無いのは当たり前だ。

僕には記憶が無いんだから。

「…柏…」ボソッ

バキューーンッ！

「！？..。」

突然銃声が鳴つた。

その音に驚いて目を開ける静馬。

「何？…。」

「人間同士が殺しあつてるんだよ。
今はこの世界はおかしいから。」

「！？..。赤…。」

「静馬？」

真っ赤な赤…真っ赤な血の色に染まる。

染まる…染まつてしまつ。

『静馬…』めん。』

染まつてしまつた。真っ赤な赤に、真っ赤な血に。

「静馬？」

「…僕は…誰なのかがわからない。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0978z/>

Oneself

2011年12月5日22時50分発行